荘内日報
7月21日（木）
発行所
荘内日報社
本社／〒997-0035
鶴岡市馬場町8-29
電話0235(22)1480(代表)
酒田支社／〒998-0045
酒田市二番町6-2
電話0234(22)4244(代表)
©荘内日報社　2011

購読のお申し込み
TEL(0235) 22-1481
編集局直通
TEL(0235) 22-1482
FAX(0235) 22-1427
広告のお申し込み
TEL(0235) 22-1479
FAX(0235) 22-2633
印刷のお申し込み
TEL(0235) 22-1724
ホームページ
http://www.shonai-nippo.co.jp/

エンジン車「EV」に改造

酒田市のオートリサイクルセンター

フル充電で40キロ走行

エコ推進へ業界関係者に説明会

ガソリンなど化石燃料を使うエンジンを電気モーターに載せ替えたコンバートEV（改造電気自動車）の説明・見学会が19日、酒田市の東北公益文科大で行われ、講演や試乗などを通して改造EVに理解を深めた。

展示された改造ＥＶに参加者から熱い視線が集まった

非常時電源として活用も

自動車リサイクル業の山形オートリサイクルセンター（本社・酒田市広栄町二丁目、伊藤雄一郎社長）が主催した。同社では、温暖化防止など地球環境の未来を考えた場合、エコカーが大きな役割を担うとの考えから改造EVに着目。1月に軽自動車の改造に着手し3日間で完成した。その後、改造EVとしては庄内初のナンバー取得を目指して改良と事務手続きなどを進め先月、ナンバーが交付されて公道を自由に走れるようになった。フル充電（家庭用コンセントで8時間）で約40キロ走ることが可能。最高速度は約80キロという。

見学会は、「省エネ・エコ推進のため改造EVを一緒に造ってみませんか」（伊藤社長）と、自動車修理工場など業界関係者らに参加を呼び掛け、約70人が参加した。

改造EV先駆者でこれまでに75台の改造実績があり、改造キットの販売や作業手順の指導などを通して改造EVの普及・推進を図っている本田昇EVhonda社長（新潟県長岡市）が、「電気自動車（改造EV）のビジネスチャンスと事業化の可能性について」と題して講演。

6キロワットの直流モーターやモーター回転のコントロールボックスなどがセットになった改造キットが89万円、バッテリーは約40キロ走行できる鉛電池で約14万円などと説明し、軽自動車の平均走行距離は1日当たり約20キロのため「通常はこれで十分」と強調、「家にあるガソリン車のうち走行距離の少ない1台をEVに改造してもらえれば、二酸化炭素の排出は確実に減る」と話した。

また、改造EVは移動電源車としての機能を併せ持つため、予想される計画停電など非常時の電源としても使えるメリットがある一方、気温の低下に伴ってバッテリーの性能が落ちることや、頻繁にクーラーなどを使用すると走行距離が短くなるなどの課題を述べた。

その後、公益大駐車場で山形オートリサイクルセンターの改造EVの見学・試乗会を開催。本田社長の解説を聴いた後、希望者が実際にハンドルを握って走らせると、音もなく滑り出した。試乗した県発明考案協会の富樫芳勇会長（鶴岡市藤島）は「普通の自動車と同じ感覚で乗れた。モーター音はほとんど聞こえない。とても静か。近場で乗るなら問題ないと思う」と話していた。

庄内選出県議と総合支庁

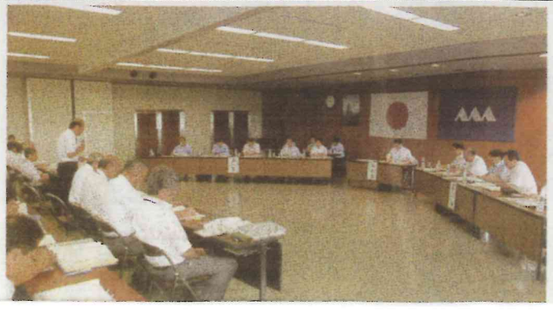
県政課題などで質疑

庄内地方選出の県議による「庄内地域議員協議会」（田澤伸一委員長）が19日、三川町の県庄内総合支庁で開かれ、同総合支庁幹部に対し県政の課題について質疑や提言を行った。

議会活動の一環で、県内4地域ごとに毎年2回開いている。行政課題や施策について質疑や提言を行い、各総合支庁の施策に反映させる狙い。今回は本年度初回で、庄内の全11県議と、庄内総合支庁側の会田稔夫支庁長をはじめ各部課長ら約60人が出席した。

県議側は「飼料用稲わらに放射能が含まれ問題になっている。堤防で刈り取った草も飼料に使うが、検査は行っているか」「先の大雨の被害は」などとただした。

庄内総合支庁側は、採草地の放射線量について



今後の施策展

震災の

県観光事業審議会（会長・舩山龍二日本観光振興協会副会長）は19日、本年度第1回会合を山形市内で開き、東日本大震災による本県観光への影響などを分析するとともに、今後の施策展開を協議した。

震災後の県内観光について、事務局の県観光交流課は、ゴールデンウイーク以降は前年並み程度まで持ち直したものの、温泉旅館などや観光施設では近県や県内が中心で、圏からの旅なく、厳しいと報入り込みけて、国内合の高い県北、新潟、各エリアの誘客対策を行客について れたことの正確な情ーター便の

県観光事業審議会

は「県内4査を行っては庄内町でなかった」地方の大雨は、先月23ソバや大豆約3％のほ業用施設が3億円、林約7600億円、先1日分が農1％、農地が57カ所約林道関係15

あつみ温泉 8月6日夕

黒川能と山戸能が共演

鶴岡市のあつみ温泉街で来月6日、櫛引地域の黒川能（国指定重要無形民俗文化財）と温海地域の山戸能（県指定無形民俗文化財）が共演する「せせらぎの能」が行われる。温海川沿いに設置される特設の能舞台で、両地域でそれぞれ受け継がれてきた舞を一度に楽しむことができる。

このイベントは、温泉街でそぞろ歩きが楽しめる温海川右岸沿いの「かじか通り」が完成したことを記念し、地域の活力向上を図ろうと、自治会や観光協会、商工会などで組織する「あつみ温泉魅力づくり推進委員会」（会長・遠田茂昌温海温泉自治会長）が昨年初めて開催した。

温海川特設舞台「せせらぎの能」

2回目の今回は、昨年と同様に萬国屋前の温海川左岸にせり出す形で特設ステージが設置される。能舞台の広さは縦5・4㍍、長さ7・5㍍。一方、観覧席はステージ対岸のかじか通りに設けられる。ステージ正面は畳敷きの有料観覧席となり、ワンドリンク付きで1人1000円。先着100人。このほかは、観覧無料でパイプいすやベンチなどが用意され、立ち見も含め約1000人が観覧できる。

時間は午後6時45分から。はじめに山戸能が上演され、儀式能「式三番」、稚児舞「恋慕の舞」、夫婦愛と長寿を祝う能「高砂」などがそれぞれ披露される。続いて、黒川能上座が、迫力ある勇壮な舞を繰り広げる能「獅子」を披露する。

また、当日は午後3時から同9時までの間、かじか通りで、生ビールや焼きそば、焼き鳥などを販売する出店が5店舗設けられるほか、アトラクションとして、地元の保育園児や高校生たちが太鼓演奏を披露する。

同推進委員会は「昨年は酒田市の花火大会と重なったにもかかわらず800人以上の人が来てくれた。今年も大勢の人が訪れてくれることを楽しみにしている」と話している。

問い合わせなどは同推進委員会（温海温泉林業センター内）＝電0235（43）2024＝へ。

四季折々のおいしさに―
マルノーしょうゆ・みそ
JA山形農工連
酒田市砂越字上川原四四番地の一
☎〇三四（五二）二〇〇四

庄内の天気
7月21日（木）
6時 9 12 15 18 21 24
鶴岡